

現在、市立美術館で開催している「長澤英俊展」。現代彫刻家として国際的に有名な長澤英俊さんの展覧会を開催することは、市立美術館開館以来の念願でした。

7月18日、市立博物館会議室で、長澤さんと川合善明川越市長の対談が実現。文化・芸術について、密度濃く語り合った内容を、要約してお知らせします。

問い合わせ：市立美術館
TEL 228-8080

長澤英俊 川合善明



蝶の木 (2008年)
大理石の柱を組み合わせ、上部と下部を逆になじった形。一見倒れそうですが、ちゃんと自立しています。アトリエの古い木箱を開けたら、たくさんの蝶が舞い上がった。その木箱に入っていたのはこういうものだという思いから作られた作品です。市立美術館で見ることができる、長澤さんの最新作です。

界の美術界の状況や変化を教えてください。唯一の情報源でした。そこが、今の私の原点ですね。

市長：当時の川越で、印象に残っている場所や、よく行った場所はありますか？

長澤：高校時代は遅くまでデッサンをしていました。学校を出ると時の鐘の前を通り、一番街へ行くんです。そこで友人と一緒に自慢焼きを食べながら、ずっと美術の話をしていたんです。当時僕は、「川越のまちを歩けば教養が身に付く」と本気で考えていました。川越のまちは、本来そうあるべきだと。

市長：「川越のまちを歩けば教養が身に付く」!! 良い言葉ですね。そういう川越でありたいですね。多摩美術大学の在学中に、創作活動はされていたのですか？

長澤：よくスケッチブックを片手に、徒歩や自転車です。しました。当時は風景画を描いていたのですが、しだいに単純化して行って、最後は線が2、3本になったんです。その線を見ると、僕自身はその時の風景が浮かぶけど、ほかの人には伝わらない(笑)。それが風景画を描いた最後でした。

「カワゴエの向かう所」

市長：今回の展覧会のために、県立川越高校の同窓生が中心となったサポート会議が、一年以上前から結成されましたね。

「川越のまちを歩けば教養が身に付く」

市長：国際的に著名な長澤先生をお迎えし、川越の地で展覧会を開催できることを、とてもうれしく思っています。また、県立川越高校の先輩ということで、勝手ながら親しみを感じてもいいです(笑)。

高校時代の思い出は何ですか？

長澤：2年生から美術部に入ったんですが、教員が使う美術準備室というのがありました。そこにはたくさんの美術雑誌が取りそろえてあつたんです。先生がそこを自由に使わせてくれました。誰も教えてくれる人がいない中、これらの雑誌は世



市長との対談は、和やかな雰囲気で行われました



ながさわ ひでとし 長澤英俊さん

イタリア・ミラノ在住の彫刻家。昭和15年、中国東北部（旧満州）で生まれ、終戦と共に母の故郷川島町に移る。県立川越高校、多摩美術大学で学び、卒業後、1年ほど川越に住む。昭和31年、日本を発ち東南アジア・中近東を自転車で横断。1年後に到着したミラノに住み着き、本格的な芸術活動を始める。ヴェネツィア・ビエンナーレやドクメンタなど、主要な国際展でたびたび紹介されている。国内では、多摩美術大学・東京ビッグサイト・新宿アイランドなどに作品を設置。現在、国際的に最も注目される現代彫刻家の1人。

文化のまち川越へ……

長澤：僕自身が、こんなにたくさんの人に支えられて展覧会ができて本当にびっくりしています。現在二百二十一人もいるんです。すごいことだと思います。

市長：今回の作品について、お伺いしたいことがあります。不思議な形をしています。あの形は最初から浮かんでくるのですか？

長澤：最初からはつきりと形になっていない場合もあります。僕の場合、そのような漠然としたものであっても、自分の中から出てくるアイデア（イメージ）は、言葉ではなく必ず形を伴ってきます。

市長：戦後の引き上げの際は大変な苦

労をされたそうですが、過去の経験から、アイデアは浮かぶのですか？

長澤：幼少期の出来事は、記憶には鮮明でも、それがどういう意味を持っているのか理解できなかった。後になって作品になったものもあります。

市長：作品の名前は、どの時点で決まるのですか？

長澤：作品が出来上がる寸前や完成後に、名前を付ける別の作業があります。接点がありますが、作品名は必ずしも作品の説明ではないんです。

市長：川越では、これから文化やスポーツに力を入れていきたいのですが、市長として、どんなことを考え、実行したら良いと思いますか？

長澤：良い現代美術作品をコレクションできるシステムを作ることが大切です。現在名画と言われている絵も、その当時は現代画ですから。一年に数回、現代美術の展覧会をするのもいいですね。なんと言っても川越は、まちを歩けば教養が身に付くから、文化にもぜひ力を入れてください。

市長：観光地として有名になった川越を、これからは文化のまちとしても有名にできるよう努力します。今後も、川越の文化・芸術を発展させるためご協力をお願いします。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

長澤：こちらこそ、ありがとうございました。



気さくな人柄で語りかけるように話す長澤さん。